

感謝

知っておきたいキリスト教のことば (47)

「主なる神に感謝しましょう」、「感謝と賛美はわたしたちの務めです」。

この応答は、聖餐式の中の奉獻（ささげ物）が終わり、「感謝聖別」の最初の方で、司式者と会衆とで交唱するものです。

「感謝」とは、「ありがたく感じて謝意をあらわす」ことです。それではわたしたちは、何に対して謝意をあらわすのでしょうか。



神さまはその独り子であるイエス様をわたしたちのために与えてくださいました。またわたしたちは日々の生活の中で、言葉には言い尽くせないほどのお恵みをいただいています。それらのことに対して「ありがとう」を伝え、賛美し、自らをお献げすることが「感謝」なのです。

パウロは新約聖書に収められている多くの手紙を書いた人物ですが、その挨拶の中で、「感謝」という言葉を多用しています。手紙を読むと、パウロはまず神さまに対して感謝の言葉を書いています。続いてなぜ感謝しているのかを述べます。その理由の中には、手紙の宛先の人との関わりへの感謝も含まれています。

さて、「感謝」という言葉はギリシア語で「ユーカリスティア」といいます。そして「聖餐式」は、「ユーカリスト」と呼ばれます。このユーカリストという言葉の中には「感謝・喜び・祝福」という意味があり、二つの言葉の語源は同じです。つまり聖餐式そのものが感謝の集いであるということです。

「どんなことにも感謝しなさい」。わたしたちが神さまから与えられた皆さんの祝福をおぼえるときに、この言葉は強要されるものではなく、勧めの言葉となります。お祈りのたびに、「神さま、ありがとうございます」という言葉が素直に言えるといいですね。今回も最後まで読んでいただいて、本当に感謝です。

次回は「犠牲」です。お楽しみに。